



元氣とタイムリーな情報を提供する

五十嵐レポート

発行:「町コン」五十嵐 勉 2025年12月01日 第1245「週刊五十嵐レポート」

中堅社員

11月28日付日経新聞、「惑う30代 成長の盲点」⑤という記事。

「やっぱりこの会社、ダメだわ」。2024年12月、大手電機メーカーの主任だったエンジニアの男性(34)は11年働いた会社を辞めた。年功序列の企業風土が染みつき、出世も昇給も入社順だった。懸命に残業をこなし、成果を上げる自分より「働かない万年課長」のほうが給料が高い。成長機会を求めて去る優秀な同僚を何人も見送ってきた。

会社が抜擢人事を可能にする制度を導入した矢先、上司は「俺はそういう人事はやらない」と言い放った。「失敗さえしなければいい上司と、残業しない後輩。そのはざままで頑張ってきたのに、もう限界」。転職先は前職より年収で300万円多い。中堅社員は追い詰められて転職していく。会社はそれに気づかない。

転職支援会社の調査によると、30代の転職理由の上位は、1. 収入アップが見込めない。2. スキルアップが見込めない。3. 残業時間が多い。人材確保や退職防止のため若手の賃上げは活発だが、会社を支えてきた中堅社員の給料の伸びは若手より抑えられてきたケースが多い。

ランチェスター経営の「組織戦略」のテキストに上司の実力と部下の実力のマトリックスがある。上司の実力が「高い」「低い」、部下の実力が「高い」「低い」。最もいい成果を出すのは、上司の実力が「高い」と部下の実力が「高い」。次にいい成果を出すのは、上司の実力が「高い」と部下の実力が「低い」。最も悪い成果をだすのは、上司の実力が「低い」と部下の実力が「高い」だった。「低い」上司と「高い」部下では人間関係が悪くなり、やがて対立する。「高い」部下は会社を辞め、転職する。

テキストでは、実力の「低い」人を上司にはいけないと書かれている。勤続年数が古いからといって、上司(マネジメント能力)に不適格な人もいる。そのような人に部下を持たせたら、お互いは不幸になる。中小企業の場合、一番の上司は社長。社長が常に経営の勉強をしていく。次に管理職が勉強していく。そうしないと部下に見限られる。

ちょっと
気になる出来事

11月29日付日経新聞、「書籍輸出 マンガに続け」という記事。

日本の出版各社が書籍の海外展開に力を入れ始めた。11月初旬に都内で商談会が開かれた。海外の出版社と翻訳の交渉に臨んだ。漫画以外のジャンルでも海外からの関心が高まる。

漫画を除いた書籍の海外売上は、2019年比で3倍ほどになっている。かつては海外売上のほとんどが中国だったが、最近では英訳も増えた。

講談社は特に伸びているのが東南アジア向けの翻訳出版。年間売上は5年で5倍になった。

BUTTER — 柚木麻子。日本では2017年刊。英訳版が2024年に英国／米国で出ると、英語圏で爆発的なヒット — 英国で Waterstones Book of the Year 2024 を受賞。ミステリ／社会派小説のジャンルで、かつ「日本らしいがグローバルなテーマ(女性の生きづらさ、社会の偏見など)」を扱っており、海外読者の感性にフィットした好例。

日本における出版書籍市場は縮小傾向。世界に打って出られる作品も多い。今後に期待しましょう。



一口メモ
知識

思慮3

目先のことに目がくらんで、
将来のことを考えずに行動すれば、
すぐに足元を掬(すく)われるよ。

子曰、人而無遠慮、必有近憂

「高校生が感動した『論語』」(祥伝社新書/佐久協)より

- 「戦略社長塾東京」小岩校 毎週日曜日・水曜日 午前10時～12時
- 「戦略社長塾東京」銀座校、武蔵村山校、豊岡校 開講中。

㈱五十嵐コンサルティングオフィス 〒133-0051東京都江戸川区北小岩6-21-5
TEL03-3659-7703 Fax03-3659-7077 info@igarashireport.com

